

清水焼の絵つけ体験

参加大使 高谷智響さん(桃山小学校6年) / 藤井芽生さん(太秦中学校1年) / 森根菜絵さん(陵ヶ岡小学校6年)

京焼・清水焼の産地として有名な山科区の清水焼団地で、3名のジュニア京都観光大使が清水焼の絵つけ体験をしました。

体験は抹茶碗や飾り皿などの絵つけや手びねりができますが、今回は湯のみの絵つけに挑戦です。描きたいデザインを湯のみに鉛筆で下書きしてから、筆を使い呉須という深い青色の顔料で絵つけします。

今回は清水焼団地内にあるコトブキ陶春の陶芸家の方が先生です。「筆の方が太いから、鉛筆での下書きは大きめに描いた方がいいよ。」「重ねて顔料を塗ると濃くなるけど、重ねすぎると焦げたようになるから



始めは上手くできるか不安だったけど、やっていくうちに慣れました。

気をつけて。」という

助言を聞きながら、集中して描きます。

体験の後、陶芸家の方から清水焼について教えていただきました。実は原料になる土は京都では採れず、滋賀県の信楽^{しがらき}地方などのものを使っているそうです。備前焼や丹波焼はその場所で土が採れることで焼物が発展しましたが、京都は都であったために優秀な職人や材料が他所から入ってきて発展しました。様々な場所からよいものが集まることで京焼・清水焼は生まれてきたのですね。

「清水焼の他にも、京都では様々な伝統工芸が体験できますが、上手にしようとするよりも、丁寧にしてく



清水焼ができるまでの工程がわかってよかったです。

ださい。そして自分だけの作品を大切な思い出にしてください。」という陶芸家の方の言葉が印象的でした。

絵つけされた湯のみなどは、釉薬^{ゆうやく}をかけた後、1250度もの高温の窯で丸1日かけて焼かれます。



「京都ミュージアムロード」の期間中に、京焼・清水焼工芸館ではこの日の大使と同じ体験ができます。また「清水焼の郷」作品展も開催されます。みなさんも長い歴史を受け継がれてきた伝統工芸の世界を感じてみませんか？

京焼・清水焼工芸館の体験は2月1日から2月28日まで、展示は全日開催です。詳しくは9ページを見てね!